

《総合的な学習の時間》 地域とつながり，視野を広げる

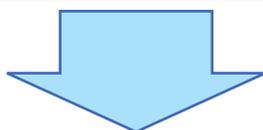
単元名 お店体験をしよう（第3学年）

ねらい

- お手伝い体験にむけて，1回目のめあてと比較しながら，2回目のめあてを考えることができる。
- 地域の商店街で働く様々な人とのかかわり合いを通して，自分たちが住む地域へ愛着をもつことができるようにする。
- お手伝い体験を通して，適切な言葉遣いで話したり接したりできるようにするとともに，お店の方の思いや願いを考えることができる。

本実践とキャリア教育

地域に根ざした学習は，どの学校でも行っていると思います。ここでは，その学習をキャリア教育の視点で見直すことで，ねらいが明確になり，体験活動を一過性のものとして終わらせるのではなく，自己有用感の獲得や，働くことや学ぶことへの意欲の向上につなげることができます。



全体構想

主な学習活動	時数	
○どんなお店があるのか調べよう ・お店の方へのインタビューをしてお店マップづくりをする。	5	〈社会科〉 「見直そうわたしたちの暮らし」
○お手伝い体験の準備をしよう ・上級生に体験インタビューをする。 ・お手伝いするお店を選び，体験のめあてを考える。 ・お店の方と事前の打ち合わせをする。 ・模擬お手伝い体験を教室で行う。	7	
○お手伝い体験に行こう（1回目） ・自分のめあてを意識して言葉遣いに注意しふさわしい態度で活動する。	2	
○お手伝い体験を振り返ろう ・お手伝い体験を振り返り，お店の方の思いや願いを考えて，感謝のお手紙を書く。 ・お手伝いの内容，お客さんやお店の方の様子について吹き出しに書いてまとめ，交流する。	2	
○2回目の体験の準備をしよう ・体験をするお店を決めて，1回目の体験と比べながら2回目のお手伝い体験のめあてをもつ。（本時） ・言葉遣いや態度を考えてお手伝い体験のお願いに伺い，準備するものや心構えなどについて聞いてくる。	4	〈特別活動〉 感謝の気持ちを表そう。 ・お礼の仕方を考え，「ありがとうコンサート」の計画をたてる。 ・「ありがとうコンサート」を開く。
○お手伝い体験に行こう（2回目）	2	
○お手伝い体験を振り返ろう（2回目） ・1回目の体験と比べながら，自分ができるようになったことや，仕事について考えたことを交流し合う。	2	
○2年生に伝えることをまとめよう ・「お手伝い体験」だけでなく，単元全体の流れをお店マップにまとめる。	3	

〈道徳〉
2-(1)
礼儀の大切さを知り，誰に対しても真心をもって接する。

3-(2)
働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働く。

《本時のねらい》

2 回目のお手伝い体験のめあてを考えることを通して、お店の人の思いや願いを知る。

《展開》（17/27 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 1 回目のお手伝いのめあてを振り返る。 ・大きな声で挨拶をする。 ・ふざけない。 ・お店の人の言うことを聞く。 お店の人の思いを知り、2 回目のめあてを考えよう	○1 回目のめあてが達成されたか、あらかじめアンケートを取り、必要に応じて提示する。 
展開	2 ビデオを見て、お店の方の思いを感じる。 3 お店の方のゲストティーチャーからお話を聞く。 4 2 回目のお手伝いのめあてをカードに書く。 ・分からないことがあったら質問する。 ・お店の人の動きに注意して、できそうなことは進んでする。 ・お店の人といろいろな話をする。	○ビデオを用意しておく。 ◎なぜお店の人は、自分たちを受け入れてくれているのかを考えるように投げかける。 ☆お店の方の思いや願いを知り、進んでめあてを立てようとする。
まとめ	5 カードに書いたことを、交流する。 ・みんな、1 回目よりめあてが高まっているね。	◎地域の人が、自分たちのためにしてくれていることに応えられるように、話をする。

実践のポイント

地域の教育力を生かしましょう

- ・「お店体験＝キャリア教育」ではありません。各地域では農業や水産業、工業、商業など特色ある産業に携わっている方がいらっしゃると思います。ここでは、商業を中心とした展開を考えていますが、それぞれの地域産業の特色を生かした実践を行うことが重要です。その道に励んでいる素敵な人との出会いを第一に考えましょう。
- ・地域の教育力を生かすためには、事前の調査・挨拶・依頼、そして、事後のお礼をしっかりとすることが大切です。管理職を交えて、地域の方への挨拶などに何うようにしましょう。

探究の過程の連続を意識しましょう

「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究の過程が、1 回目のお店体験と2 回目のお店体験で、連続し高まっていくことを意識して学習を組み立てることが大切です。ここでは、課題の設定について、1 回目では、基本的な挨拶や基本的なコミュニケーションについてめあてを立てるようにしています。2 回目では、自分たちで依頼に行ったり、仕事のこつなどを気付くように心掛けたりすることにめあてを変化させます。

《特別活動・学級活動》 自分の役割を遂行することを自

題材名 進んで働こう(第3学年)

ねらい

働くことの意義を十分に理解し、学級生活に貢献していることが実感できるようにする。

本実践とキャリア教育

本実践は、学級活動の内容(2)「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」に当たります。

人は自分の興味のあることや得意なことを生かした職業に就きたいと願い、そのためには努力をしなければなりません。労働による自己実現は、いやなことや辛いことから逃げていては果たせません。当番活動は集団生活である学級を円滑に機能させるために不可欠な活動です。自ら選んだ係活動とは異なり、否が応でも与えられる職務を果たさねばなりません。その意義を自覚し、自分の役割を遂行しようと自己決定させる本実践は、将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置きながら、児童の成長や発達を促進するというキャリア教育の「視点」からも、大切な活動と言えるでしょう。

本実践は、役割把握・認識能力に重点を置き、さらに実生活において役割遂行能力を高める指導を展開するものです。

全体構想

〈道徳〉

4(2)働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。

本実践

学級活動内容(2)「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」

題材名「進んで働こう」

- 当番活動によって学級生活が円滑に機能することを理解させる。
- 自分に与えられた当番活動に責任をもち、役割を最後までしっかりと遂行していくことを自己決定させる。

〈当番活動〉

- ・日直
- ・給食当番
- ・掃除当番

心のノート

日常生活における当番活動の中で役割遂行能力を高めるための指導を展開する。
☆自己評価・相互評価により自己決定した実践内容を振り返らせ、より一層、進んで働くことに取り組みさせる。

家庭生活における役割(お手伝い)を果たす。(保護者との連携)

係活動においても、計画的に最後まで取り組ませる。

己決定させる

《本時のねらい》

当番活動の意義を理解させ、進んで働こうとする意欲をもつことができる。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 <small>配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)</small>
導入	1 問題を共有化する。	○主に教師による司会進行 ○アンケート結果の発表は計画委員による。
	<p>事前アンケートの発表</p> <p>Q1：あなたは、日直、給食当番、掃除当番の仕事をさぼることなく、最後までしっかりと取り組んでいると言えますか。 はい(15名)・いいえ(8名)</p> <p>Q2：3年1組では、だれもが日直、給食当番、掃除当番の仕事をさぼることなく、最後までしっかりと取り組んでいると言えますか。 はい(9名)・いいえ(14名)</p> <p>T：この結果から、何がわかりますか？</p> <p>・自分ではしっかりとやっているつもりでも、人を見るとやっていない人がある。 ・Q1で「いいえ」と答えている人があるから、全員が当番をちゃんとやっているとは言えない。</p> <p>T：今のままでいいか？</p> <p>・やっている人とやっていない人の仲が悪くなる。 ・教室が汚くなったり、給食が始まるのが、もっと遅くなる。等々</p> <p>T：自分はどうする？</p>	
展開	2 解決策を検討する。	<p>T：人がいやがる仕事を進んでやろうとしている。素晴らしい！</p> <p>☆自らの役割を遂行しようとしたり、他の仕事へ惜しみなく協力しようとする。</p>
	3 実践への自己決定をする。	◎短冊に書き、発表することで明確な自己決定ができるようにする。
まとめ	<p>・さぼらない。やるべきことをやる。 ・机運びや重い食缶運びを進んでやる。 ・さぼっている人を注意する。</p> <p>・自分の仕事が終わったら、終わっていない人を手伝う。 ・注意するのではなく「一緒にやろう」と誘う。 ・自分の仕事はすぐに取り掛かる。</p>	
	4 教師の話を聞く。	

実践のポイント

集団思考の過程を重視しましょう

他者の意見に対する自分の意見を述べさせることで、よりよい自己決定につなげていきましょう。

自己決定を個人としての実践につなげていきましょう

自己決定した実践内容に取り組む意欲を育みます。短冊は教室に掲示し、帰りの会で自己評価させたり、相互評価させたりしながら、実践できている児童は全員で讃えるなどの意欲付けをしましょう。

《国語》 言葉によるコミュニケーション能力を高める

単元名 調べて発表しよう(第4学年)

ねらい

○話すことに関する指導事項

- ・相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。
- ・相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。

○聞くことに関する指導事項

- ・話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。

本実践とキャリア教育

言語に関する能力は知的活動の基盤であり、コミュニケーションや感性・情緒の基盤になることから、新学習指導要領においては国語科のみならず、各教科等においてもその育成を重視しています。

本実践は、「言語による双方向性のコミュニケーション能力」と解釈し、国語科で実践・検証されたものであり、新学習指導要領における第3学年及び第4学年の「A話すこと・聞くこと」の指導事項と言語活動例の具体化を図っています。

また、目的に応じて発表したり聞いたりするためのポイントを主体的につかめるようモデルを効果的に用いた指導を工夫しています。

全体構想

言語による双方向性のコミュニケーション能力 A話すこと・聞くこと

話し方

- 論の展開の仕方 ○発表原稿の作り方
- 具体物(資料)提示の仕方
- 適正な声の大きさ、抑揚の付け方、速度、間の取り方
- ボディランゲージの方法 等

聞き方

- 聞き取りメモの取り方
- 話題を深める質問、感想の述べ方

双方向性

教科書資料「手と心で読む」(点字に関する文章)を読む (1)

もっと知りたいこと、確かめたいことを取材する (3)

発表のモデルを学び、自分の発表原稿を作る (2)

発表会を開き、言語によるやりとりを行う (3)

《本時のねらい》聞き取りメモや質問、感想のモデルを参考にし、目的に応じて話の中心に気を付けて聞くことができる。

《展開》（7/8 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 前時の復習と本時の確認をする。 T：前の時間では、発表する時の原稿の書き方を学びました。「中村さん」の原稿を参考にして、皆さんもお友だちに伝わりやすいようにポイントを書き足して、発表の準備をしました。今日は、発表の聞き方について勉強します。 ＊「中村さんの発表原稿」（資料p.173 参照）	◎聞くこと→質問・感想がコミュニケーションの始点となることを説明する。
	2 友達の発表内容をよりよく理解するための聞き取りメモの書き方を知る。 T：もう一度、中村さんの発表を聞きます。発表を聞いた後の交流で、質問や感想が言えるようにメモを取りながら聞きましょう。	◎「中村さん」の発表を録音したテープを流す。
展開	T：「山田さん」というお友だちが書いた聞き取りメモを紹介します。自分のメモとどこが違うか、発表してください。※「山田さんの聞きとりメモ」（資料 p.173 参照） 【予想される児童の反応】 ・短い言葉で書いている ・記号を使っている 等	◎「中村さん」の発表を録音したテープを流す。
	T：「山田さん」はなぜこのようなメモの取り方をしたのか考えてみましょう 【予想される児童の反応】 ・あとでメモを見て感想が言えるように、自分が聞いて大事だと思った言葉だけを短くメモした。 ・メモばかり取ってはいは聞く方に集中できないので記号や短い言葉でメモした。	
	3 質問や感想の述べ方を知る。 T：「山田さん」は、聞き取りメモを使って、感想と質問をします。それに対して「中村さん」が答えます。よく聞いて下さい。	＊「山田さん」の感想と質問、「中村さん」の回答のテープを流す。（資料p.173 参照）
	T：「山田さん」の感想と質問の仕方のよいところを考えてみましょう。 【予想される児童の反応】 ・中村さんの発表の仕方のよい所を述べている。 ・疑問に思ったことを質問して中村さんが伝えたいことをよりよく理解しようとしている。	
まとめ	4 ミニ発表会を行う。 T：友達がどんなことを調べたのか知るために発表し合い、質問や感想を出し合ってください。	☆発表→感想・質問→回答の双方向性のコミュニケーションを成立させることができる。 ◎伝え合うことの喜びを確認させる。
	5 教師の話聞く。	

実践のポイント

日常生活で、中心に気を付けて聞くことを積み重ねましょう

聞きながら同時にメモを書く要領は、帰りの会で連絡帳に持ち物や連絡事項を書かせる際に指導します。

友だちの発言に対して必ず自分の考えを述べる習慣を大切にしましょう

教科の授業をはじめ学級会等で意図的にコミュニケーションを取る場面を設定しましょう。

《社会》 モデルとなる生き方との出会いを通して夢をはぐく

単元名 安全なくらしとまちづくり(第4学年)

ねらい

地域社会における災害及び事故の防止について、関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていることや、相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを見学や調査、資料の活用などによって調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きと、そこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにさせる。

本実践とキャリア教育

この単元では、まちの安全を守る多くの人と出会います。安全を守っている人との出会いを、キャリア教育の視点で見直し、生き方のモデルとなるような人との出会いになるようにすることにより、いかに生きていくかを意識させることができます。

全体構想

主な学習活動	時数
○オリエンテーション	1
事件・事故を防ぐ <ul style="list-style-type: none"> ・おそろしい交通じこ① ・学校の周りを調べよう① ・くらしの安全を守るけいさつしょ②(本時) ・地域の防犯について調べよう① ・安全レポートをつくろう① ・安全会議を開こう① 	7
火事・災害を防ぐ <ul style="list-style-type: none"> ・あっ、火事だ① ・学校の消ぼうしせつをさがそう① ・まちの消ぼうしせつをさがそう① ・消ぼうの早さのひみつをさぐろう② ・大切なのは「ふだんから、みんなで」① 	6
安全なまちづくりのてい案をしよう <ul style="list-style-type: none"> ・新聞にまとめよう① ・提案をしよう① 	2

〈総合的な学習の時間〉
「住みよい町をつくるために」
探究的な活動を通して、地域の人々の暮らしや生き方を学ぶ機会を設ける。

〈道徳〉2-(4)
生活を支えている人や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。

〈総合的な学習の時間〉
安全なまちづくり報告会をしよう。
・お礼の仕方を考え、報告会の計画を立てる。
・「安全なまちづくり報告会」を開く。

《本時のねらい》

警察署の交通事故への対処の仕方や連絡の仕組み、防犯などの警察の仕事について調べ、暮らしの安全を守るための工夫や努力をとらえることができるようにする。

《展開》(4・5/16 時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 交通事故が起きたらどうしたらよいのかを話し合う。 ・110番するよ。 ・その後は、どうなるのかな。 警察は、どのような仕事をしているのか調べよう	○交通事故への対処を考える中で、警察官の仕事に目が向くようにする。
展開	2 警察署へ見学に行き、交通事故への対処や警察官の仕事などについて調べる。 ・110番の仕組みは、通信司令室に行ってそこからいろいろなところに連絡するのか。 ・消防署などとも協力しながら仕事をしているんだ。 ・交通事故を防ぐための取組もしているんだね。 ・みんなのためになりたいと考えて、警察官になったんだ。 ・安全を守ることが、やりがいなんだ。	◎警察官にインタビューする際に、なぜこの仕事に就いたのかを質問し、やりがいなどにも触れるようにする。 ☆110番の仕組みや関係機関との協力の仕組みなど、警察の仕事について理解する。
まとめ	3 見学して調べたことを基に、警察の仕事についてまとめる。 ・警察の人は、わたしたちの暮らしを守るためにがんばってくれているんだ。素敵だな。	◎社会の安全を守るために、日夜働いている警察官の仕事のすばらしさについて投げかける。

実践のポイント

投げかけ一つでキャリア教育になります

これまでの学習に「なぜその仕事に就いたのか」という投げかけをプラスすることで、キャリア教育につながります。キャリア教育の視点をもって、これまでの教育活動を見直してみましよう。

各教科等の関連を考えて単元を構築しましょう

総合的な学習の時間における探究的な活動への展開や各教科、道徳等との関連をもたせましよう。道徳を核として、総合的な学習の時間「住みよい町をつくるために」と関連させて見直しましょう。このことにより、いろいろな職業や生き方があることが分かることにもつながります。そのために、一緒にパトロール活動を体験したり、交通安全指導員さんの仕事の様子を観察させたりすることも有効です。

《理科》 普段の学習が将来につながることを実感させる

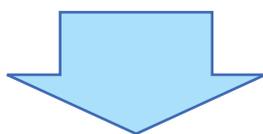
単元名 自由研究「出かけよう科学の世界へ」(第4学年)

ねらい

これまでの学習を基に自分が調べるテーマを見付け、地域施設を活用したり体験的に調べたりして研究を進め、それらの成果を発表して科学的な見方や考え方、表現力を高められるようにする。

本実践とキャリア教育

この単元では、地域の科学館やプラネタリウムなどに出掛け、それらの施設を活用したり体験したりして、自分の研究を進めます。その際にただ施設を利用するだけでなく、自分の好きなことを生かして働いている人にも焦点を当てることで、今好きなことや、学習していることが将来につながることを実感させることができます。



全体構想

主な学習活動	時数
○出掛けよう科学の世界へ ・疑問に思うことや、もっと詳しく知りたいことを科学館に出掛けて調べてみる。	2
○発表会をしよう ・調べて分かったことや、おもしろかったことをまとめて発表会をする。	2

〈道徳〉1-(5)
自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。

夏休み中に
・地域施設の見学や、観察会などに参加する。



《本時のねらい》

これまでの学習を基に自由研究のテーマを立て、地域施設などを活用する計画を立てることができる。

《展開》(1・2/4 時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 これまでの学習や身の回りの事象をもとに、疑問に思っていることを発表する。 ・わたしは、もう少し星のことを調べてみたいです。 ・この間見つけた昆虫、図鑑に載ってなかったんだけど。 科学館に出掛けて調べてみよう	○パンフレットを集めておいたり、インターネットのサイトを事前に調べておいたりして、すぐ調べられるようにする。
展開	2 利用できる地域施設の情報を集める。 ・科学館のプラネタリウムには、たくさん星が映せるプラネタリウムの機械があるのか。 ・その機械を作った人は、子どもの頃からプラネタリウムが好きで、この科学館に来てただって。 3 自分のテーマに合わせて、自由研究を進める計画を立てる。	◎出掛けたときに、その仕事に就いた理由を質問するように投げかけ、好きだったことが生きていることに触れられるようにする。 ☆自由研究のテーマを決め、進めるための計画を立てることができる。
まとめ	4 立てた計画について交流する。 ・ぼくは、鳥のことを調べたいので野鳥の観察会に行くことにしました。 ・計画を立てたことを、しっかり実行することも大切だね。	◎計画を立てた後、どのようにきちんと実行していくか、実現可能な日程を考えることを示唆する。

実践のポイント

普段の学習が実社会で役に立っていることが実感できるように、単元を構成しましょう

ここでは、地域の科学館などに出掛けるようにしていますが、「電気のはたらき」の学習の後に電池工場に出掛けることなども考えられます。日常の生活や学習が、将来の生き方に関係していることを気付かせることに重点を置きながら学習を進めていくことによって、今までの学習にキャリア教育の視点が加わります。

夏休み中に、地域の施設に出掛けたり観察会に参加したりした際に、施設の方にインタビューをするように投げかけることも大切です。

計画づくりの必要性に気付かせましょう

中学年のこの時期に、計画づくりの必要性に気付かせたり、作業をする際には手順が重要であることを実感させたりすることはキャリア発達の上で重要です。手順が分かる計画カードを用意し、内容を書き入れていくなどして計画を立てるようにさせましょう。また、「いつまでにそれをするのか」を意識させて、計画だけで終わらないよう実行できるものにしていきましょう。

《体育》 自分らしく生きること自信をもたせる

単元名 育ちゆく体とわたし(第4学年)

ねらい

- 体の発育・発達について理解できるようにする。
 - ・体は、年齢に伴って変化すること。また、体の発育・発達には、個人差があること。
 - ・体は、思春期になると次第に大人の体に近付き、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。
 - ・体をよりよく発育・発達させるには調和のとれた食事や適切な運動、休養、睡眠が必要であること。

本実践とキャリア教育

中学年のこの時期、自分の体つきにそれぞれ自信がもてないことがあります。例えば、背の低い子は低いことを気に病み、背の高い子は高いことを気に病んでいることがあります。しかし、自分が悩んでいても、他の子にも悩みがあることには思いが至らないことが多いようです。ここでは、他の子と比べることで成長には個人差があり、個性の良さを感じ取ることで、自分のよいところを見付ける手助けとなります。

全体構想

主な学習活動	時数
○大きくなってきたわたしの体 (本時) ・体は年齢に伴って変化することを理解する。	1
○おとなに近づく体 ・体は思春期が近づくとしだいに大人の体に近づき、体つきが変わることを理解する。	1
○体の中でも始まっている変化 ・思春期に近づくと、初経や精通が起こることや、異性への関心が芽生えることなどを理解する。	1
○すくすく育てわたしの体 ・体をより良く発達させるためには、調和のとれた食事、適切な運動、休養および睡眠が必要であることを理解する。	1

〈道徳〉

3-(1)
生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。

1-(5)
自分の特徴に気付きよい所を伸ばす。

〈総合的な学習の時間〉

「1/2 成人式をしよう～大人になるっていいね～」(p.138) へ

《本時のねらい》

身長や体重などは年齢に伴って変化することや、それらの変化には個人差があることに気づき、自分の成長を肯定的に受け止める態度を育てる。

《展開》（1/4 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 身長がどのように変化してきたのか考える。 自分たちの体はどのように変化してきたのだろうか	○1年生のときから4年生までの身体測定の結果を用意しておく。
展開	2 自分の身長の伸び方をグラフで確かめ、友だちとの比較を通して、分かったことや気付いたことまとめる。 ・身長は毎年伸びているけど、同じだけは伸びていない。 ・身長の伸び方は人によって違うね。 3 大きくなるのは身長だけか話し合う。 ・体重もふえるね。 ・手の大きさも変わるよ。 4 自分らしさについて考える。 ・体の成長も自分らしさの表れなんだね。	○グラフを基に、紙テープ等で成長が実感できるようにする。 ○1年生と6年生の机とイス、靴などの具体物を通して、成長してきていることを実感させる。 ☆年齢によって体が変わっていることや、人によって成長の仕方が違うことを理解する。
まとめ	5 この時間に学習したことをまとめる。 ・自分の体って素晴らしい、これからも大事にしていけないといけないね。	◎成長の仕方は人それぞれ違い、自分らしさを大切にするこの意味を考えさせる。

実践のポイント

各教科等の関連を考えて単元を構築しましょう

総合的な学習の時間における探究的な活動への展開や各教科、道徳等との関連をもたせましょう。この学習をした後には、道徳の時間で自分のよさを伸ばす主題を学習することで、体つきの違いだけでなく、自分の個性を大切にしていける心情を育てましょう。

これまでの成長を実感できるようにしましょう

これまでの成長の軌跡が追えるように、紙テープで身長の伸びを視覚化するなどして実感できるようにします。また、友だちの紙テープと自分の紙テープを重ね合わせると皆の成長が異なることも実感できると思います。このような実感を基に、それぞれが違っていいことに気付かせましょう。

《道徳》 自分のよい所に自信をもたせる

主題名 自分の長所をのばす1-(5)(第4学年)

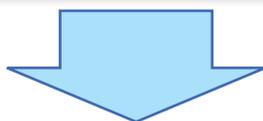
ねらい

自分の特徴に気付きよい所を伸ばす。

本実践とキャリア教育

ここでは「命の大切さ」「自分の長所を伸ばす」の二つの道徳の主題を総合的な学習の時間などと組み合わせて学習することで、より効果的な学習となるように考えています。

「1/2成人式を開こう～大人になるっていいね～」は、もともとは国語の教科書にあった単元で、よく取り組まれていると思います。この単元をキャリアの視点で見直すことで、キャリアの導入を図ることができます。総合的な学習の時間の学習で養われた道徳性を、道徳の時間で補充、深化、統合することが大切です。



全体構想

総合的な学習の時間

「1/2成人式をしよう～大人になるっていいね～」

主な学習活動	時数
○20才の人と語る会を行おう。 ・20才の人の話を聞き自分の将来について考える。	2
○成人式に参加する20才の自分を想像し、発表しよう。	1
○10年間の成長について調べ、自分史をまとめよう。 ・家族へのインタビューなどを通して、自分の命の大切さを実感させるようにする。	6
自分のドリームマップを作って交流しよう。	2
○1/2成人式をどのような会にするか話し合って準備しよう。 ・成長を喜び合い、将来を応援し合える会にするように工夫する。	6
○1/2成人式を行おう。 ・思い出の品の紹介 ・かけがえのない人の紹介 ・家族への感謝の手紙の朗読 ・将来の夢についての発表 ・10年後の自分への手紙の朗読	2
○活動を振り返ろう。	1

〈道徳〉
3-(1)
生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にす。
「命の大切さ」

1-(5)
自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。(本時)
「発明家ベル」

〈体育科〉
「育ちゆく体とわたし」
(p.137 参照)

〈特別活動〉
感謝の気持ちを表そう。
・お礼の仕方を考え、「1/2成人式」の計画を立てる。
・「1/2成人式」を開く。

《本時のねらい》

自分の特徴に気付き、自分のよい所を伸ばしていこうとする態度を育てる。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 多くの人の役に立っているものについて話し合う。 ・電気や電話、ガスなどがあります。	○実物の電話を提示する。
展開	2 「発明家ベル」を読んで話し合う。 (1) 小麦の殻が硬くてなかなかむけないとき、ベルはどのような気持ちだったでしょう。 (2) 水車の方で小麦の殻をむく道具を発明し成功したとき、ベルはどんな気持ちになったでしょう。 (3) 「きっと立派な発明家になるよ。」と言われたとき、ベルはどんな気持ちだったか役割演技をして考えましょう。 3 自分の伸ばしていきたいと思うよいところについて話し合う。	◎ベルの発明が人を喜ばせたことを考えさせるために役割演技をさせ、人の役に立つことの意味を考えさせる。 ☆自分のよい所を見付けることができる。 ○経験の想起が困難な児童には、具体的に勉強・運動・趣味・習い事等の場面を提示する。
まとめ	4 教師の説話を聞く。 (1) 自分が小学校のとき、自分のもっているよさに気付き、伸ばしていこうと思ったことを話します。	◎これからの生活で、生きていることのすばらしさに目を向けるよう経験を話す。

実践のポイント

各教科等との関連を考えましょう

- ・総合的な学習の時間における探究的な活動との関連や各教科、特別活動等との関連をもたせましょう。総合的な学習の時間「1/2 成人式を開こう～大人になるっていいね～」と関連させて見直しましょう。また、生命の尊さを知り、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる主題を位置付けた後で、自分のよさを伸ばす主題を位置付け、これから生きていくことのすばらしさに、目を向けるようにしましょう。
- ・家族や友達などのかかわりの中で、自分の言いたいことを伝えたり、互いのよさを認め合ったりする場面を設けるようにして、自己肯定感を味わわせましょう。

役に立つすばらしさを体感させるために

役割演技などを通して、人の役に立つすばらしさを感じ取らせるとともに、自分のもっているよさを生かしていくことに重点を置いて指導しましょう。

《特別活動・学級活動》 集団の発達段階の特質を生か

議題名 誰もが楽しいドッジボール大会を開こう(第4学年)

ねらい

自発的, 自治的な活動を積み重ね, よりよい人間関係を形成し所属感を深める。

本実践とキャリア教育

キャリアは「個人」と「働くこと」の関係上に成立する概念です。そこに個人が所属する社会や集団の存在を位置付けることは, 人間が社会的な動物である以上, 極めて重要な観点になります。

集団活動を指導原理とする特別活動のうち, 学級活動の内容(1)「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」は, 児童にとって学級や学校生活の身近な問題を取り上げて, その解決や改善に向けた具体的な行動を要求するものです。

学級として, どう行動するかを話し合いによって集団決定し, それを実践する過程で, 児童は集団における自己の存在を認識し, 自らの持ち味や役割を自覚します。

本実践は誰もが楽しめるゲームのルールづくりを集団決定したものです。集団活動の発達の特質を踏まえて望ましい人間関係を形成し, 集団としての凝集性を高めることをねらいとしています。

全体構想

第4学年 集団活動の発達の性質

- ・ 集団目標の達成に主体的にかかわったり, 共同の活動に取り組む。
- ・ 自分たちできまりをつくって守ろうとする自主性が増す。
- ・ 学校生活全般に興味・関心を広げ, 自発的な活動への意欲が高まる。

事前の活動

- ・ 計画委員による提案理由, 本時のめあて, 柱1, 2の設定。

提案理由

「先月やったドッジボール大会では, ボールに触れなかった, 顔を狙う人がいた, 外野のルールがいい加減だった等の声がありました。先月の反省をみんなですべて, 誰もが楽しめるきまりをつくって, 今度は全員が楽しめるドッジボール大会をしたいと思ったからです」

学級の実態

- ・ 発達の特質が見られる一方で, 話し合い活動が意見の「出し合い」で終わってしまい, 出された意見から多数決で集団決定という展開になってしまうことがある。相互に意見を交流させる意図的な指導が必要である。

本時の活動

〈道徳〉

4-(1) 約束や社会のきまりをまもり, 公德心をもつ

事後の活動

- ・ きまりを守ってドッジボールができたか, みんなが楽しめたか, アンケート調査をする。

し、自主性を育てる

《本時のねらい》

- ・ 集団としての意見をまとめるための方法などを理解して話し合い活動ができる。
- ・ 集団の秩序や規範、集団活動の方法などを自分たちでつくることができる。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の観点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 提案理由とめあての確認をする。 提案理由(全体構想参照) 本時のめあて ・出された意見に対して、理由を付けて賛成、反対を述べよう。	○児童に司会進行をさせる。 ◎意見の交流こそコミュニケーションであり、その重要性について教師が説く。
展開	2 先生の話聞く。 3 話し合う。 柱1 先月のドッジボールの反省をはっきりさせる 【実際の児童の反応】 A:一度もボールに触れない人がいた。 B:元外野は当たった後、中に入ってよいか分からなかった。 C:顔を狙われて怖かった。 D:審判がいなかったから、当たったかどうかいい加減だった。 柱2 今度のドッジボールのきまりを決める 【実際の児童の反応】 Aに対して ・ボールが捕れなくても、タッチして自分の陣地に叩き落とせば捕ったことにする。 ・賛成。苦手な人も積極的になれる。 (以下、略)	○あらかじめアンケートを取り、まとめたものを計画委員が発表する。 T:楽しいドッジボールにするための「楽しい意見」だと感心しました。 ☆「ボールを2個にして、ボールに触れるチャンスを増やしたほうがよい。」というような発展的な意見を出すことができる。
まとめ	4 きまりを決める。 5 決まったことの確認をする。 6 感想を発表する。	○一つの意見に対する賛否の意見を出させることによる合意形成を図る。 ◎自分たちできまりをつくったことを賞賛し、実践への意欲を高める。

実践のポイント

提案理由やめあてを投げ所にした話し合いになるよう教師が適宜アドバイスをしましょう

話し合いの目的が外れてしまったり、意見の交流が期待できるときは、教師が軌道修正をしたり、司会に対して「今の意見についてみんながどう考えるか聞いてください」とアドバイスしましょう。

必ず実践の場を設定しましょう

話し合ったことが実践できるよう、時間や場を設定しましょう。